

全教

2011年5月2日

NO. 465

とよなか

全教豊中教職員組合

〒561-0874

豊中市長興寺南3-5-2

TEL (06) 6865-3190 FAX (06) 6865-3191

Eメール zenkyo-toyonaka@tcct.zaq.ne.jp

Web ページ

<http://www.tcct.zaq.ne.jp/zenkyo-toyonaka/>

被災地の教育委員会に

全国からの募金を届け、懇談

全教・教組共闘

東日本大震災対策本部

全教・教組共闘代表は、4月14日に、福島県教委・宮城県教委・仙台市教委、4月15日に、岩手県教委に義援金を渡し、懇談しました。

全教・文科省に現地要望を踏まえた要請書を提出

全教は、4月14日、文科省に対して、「東日本大震災に対する支援と教育活動の再開に向けての要請」を提出しました。

子どもが必要な学用品がない。就学援助がいきわたるよう文科科学省にも要請している。」(岩手)などと応じました。



各教委は、「(全教が文科省に提出した)要請書と趣旨のことを県教委として文部科学大臣あてにいくつも要請している。いくつもか実現しているものもある。」(福島)「教職員の加配、心のケアなどの対応について、県教委とともに国に働きかけていきたい。」(仙台)「習字道具な

ど必要な学用品がない。就学援助がいきわたるよう文科科学省にも要請している。」(岩手)などと応じました。

全教は、4月14日、文科省に対して、「東日本大震災に対する支援と教育活動の再開に向けての要請」を提出しました。

文科省は、4月27日被災地4県(宮城・岩手・茨城・新潟)の公立小中学校に3

救援カンパ 2875万8271円

4月11日現在、全教本部に集まったカンパです。

全教豊中が行った職場・街頭カンパの36万3457円は、4月19日に全教本部に送りました。ご協力いただき、ありがとうございます。復興には、まだまだ時間がかかります。引き続き、支援していきましょう。

教え子を再び戦場に送るな！

中学校教科書採択に、 現場教職員の声を反映させましょう

3月30日、文科省は、2012年度から使われる中学校教科書の一部公開を行いました。

侵略戦争肯定・アジアの人々との共生を否定する2社の教科書

「新しい歴史教科書をつくる会」（「つくる会」）の自由社版と、「つくる会」から分裂した「日本教育再生機構」（「再生機構」）の育鵬社版は、06年度用扶桑社版を基にしているため、とても似通った内容になっています。

「子どもと教科書全国ネット21」によると、

○「中国大陸での戦争は長期化し、いつ終わるとも知れなかった。・・・侵略・・・」

こうして、日本は、戦争をしかけられ、中国大陸の奥地まで、泥沼の戦争に引きずりこまれた。」

（自由社版）

○「二つの世界大戦を経験したが、大変な時代だった。日本はおつちも受動的な立場で、みずから戦争をしかけたことはない。」

（自由社版）

○「この（大東亜）会議以降欧米による植民地支配からアジアの国々を解放し、大東亜共栄圏を建設することが、戦争の名目としてより明確に掲げられるようになりました。」

（育鵬社版）

文科省で検定・修正

さすがに、歴史を歪曲したこれらの記述には、検定

で修正意見がつき、書き換えられてはいるものの、このような記述は、各所にみられます。

「つくる会」「再生機構」などによる議会請願

自由社と育鵬社などは、昨春秋以降、地方議会に請願（陳情）を一斉に出しています。請願の内容はどこでもほとんど同じで、「教育基本法や学習指導用超改正の趣旨に最もふさわしい教科書を採択すること」というものです。すでに、5府県1市で自民党・公明党・みんなの党の賛成多数で（一部では民主党も）採択されています。

これらの請願決議は、自由社版・育鵬社版教科書を

採択させるために、教育委員会に圧力をかけるものです。

教育委員会は、一般行政から独立して教育行政を管理・運営する機関です。このような決議は、教育委員会の教育行政に議会が不当に介入することになります。

教科書は、学校現場の意見を尊重・反映したものを採択しましょう。



新歓フェスタ

四月十六日(土曜日) 福祉会館

毎年恒例の全教豊能ブ
ロック新歓講座を、福祉会
館で開催しました。
オープニングは、ドラえ
もんバンドの演奏、そして、
お役立ち教室アイデア集
として、詩やゲーム、懇談
会の持ち方の紹介。

知って得する働く権利と
して、新任研や年休や病休
をクイズ形式で楽しく学び
ました。
本でつながる

子どもたちの笑顔

一本のあふれる教室を

学校に豊かな文化を

鈴木 健司さん

記念講座は、パワーアッ
プ連続講座でもおなじみの
鈴木健司さん(こどもと本
の会主宰)。実際に、絵本
の読み聞かせをしながら、
絵本という素材を、どう料
理して子どもたちに食べて
もらうか、その料理方法も
紹介してくださいました。



にも使えるなと思いました。
自分でも、いろんな絵本を見
つけてみようと思いました。

(小学校 新任女性)

☆3時間、あつという間でし
た。はじめの1時間に教えて
いただいたミニネタは、ちょ
うど、参観のネタなどに困っ
ていたところだったし、色ん
なアイデアを知ることがで
きました。絵本についても、
すぐくおもしろかったし、母
性・父性についてのお話、す
ごいなあと思いました。自分
より、年齢の下の人が、こん
なにがんばっておられるのを
見て、自分もやらねばという
気持ちになりました。

(小学校 女性)

☆20日(火)に参観があり、
何かあるかな?と思い、来て
みました。大当たり!「詩」
をやってみます。大教済にも
加入!絵本講座もよかった。
まず、4歳の子(自分の子ど
も)にもおみやげができました。
本屋に寄ります。

(小学校 女性)



2. 教育は権利 子どもが輝く教育を

(1) 子どもが主人公の

学校・学級づくり

教育はそれ自体が権利であることを明確にしましょう。行政はこの点をあいまいにし、教育を受ける権利を人権教育の単なる一項目におとしこんでいます。

「人権教育」である前に、教育を受ける権利は人権であり、学校は人権保障のための場なのです。

子どもたちは人権教育を受けるために学校へ来ているのではなくて、権利として学校へ来ているのです。

子どもは、親や家族、教職員など他者との人間的なかわりを通して、人間的信頼や尊敬の感情を醸成させます。

多くの教職員は子どもが主人公、どの子ども人間として大切にされる学校・学級づくりを、こころがけています。日々のとりたてて声高に報告することのない地道なふつうの実践の積み重ねが人権というものを実感し、真に理解していくことにつながります。このことに確信を持ち、当たり前の実践を積み重ねようではありませんか。

特定の価値観の押しつけや体罰、管理主義的教育では子どもは人間らしく扱われず、人間への信頼感を育てることになりません。そのような教育では他人の人権を尊重するように指導しても期待はできません。

授業研究会においては「わゆる「揭示物」「行儀」「美化」評価をやめ、みんな

☆☆☆☆

教育課程づくりで

大事にしてきたこと

八尾市小学校教員

時間の許す限り学年会でいっしょに学んで授業づくりを進めてきました。

すすめるにあたって大事にしたことは、まず、頭ごなしに「教科書はダメだ」と言うことは避け、みんな

で教科書をよく読み、指導書をよく読むことから始めました。そして、様々な出版社から出ている研究実践書やサークルの実践を紹介しました。そして、みんなが納得した授業を作り出そうと提案し、研究を進めました。

授業研究会においては「わゆる「揭示物」「行儀」「美化」評価をやめ、みんな

なで教材・授業づくりを学び合える研究会を進めることを大事にしてきました。

改訂学習指導要領について、昨年度から繰り返し学習会を行いました。その内容を学習するごとに、「なぜ?」「文科省が今まで言ってきたことと...」「子どもたちは...」「授業時数が増える!」「学習内容が多すぎる!」などの声が出てきました。

(以下、次号に続く)

